

科目名 (英)	生物・化学 Biology・Chemistry	年次	1	必修科目		科目 責任者	柴田 潔
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水曜日/1限、2限:対面
講師紹介	元日本歯科大学・東京短期大学教授。薬学部大学院を卒業後、日本歯科大学に奉職し抗腫瘍抗生物質の開発研究など、豊富な実務経験を有する。学部講義では、歯科医療の現場で歯科医師、歯科衛生士に必要な生物・化学の知識を中心に授業を実施。						
目的	歯科衛生士の職務は、人に対する業務で心遣いなどが重要になりますが、それは医療人としての知識が身につけていなければ発揮できない。そのためには、自然科学（数学・生物・化学）に関する分野を学習しながら歯科衛生士に必要な基礎知識を身に付ける。						
科目概要	歯科専門科目を無理なく理解できる高等学校低学年程度の生物・化学の基礎知識の修得						
到達目標	これまでに中学・高校で学んだ生物・化学の基本知識を再確認すると共に歯科衛生士として必要な生化学、薬理学や理工学などの専門基礎科目を学ぶための基礎となるステップアップした知識を身に付ける。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『楽しくわかる 生物・化学・物理』 羊土社			事前事後 学習と その内容	講義前:授業のコマンドパスをチェックし、講義の進行を把握する。 講義後:授業の講義内容を復習して重要事項(到達目標)を達成できたかチェックする。		
参考図書	歯科衛生学シリーズ 化学 医歯薬出版						
特記事項	プリント(PowerPointのスライド)をオンライン配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ユニット1 生物:細胞の構造と器官の働き	講義	・動物の細胞と植物の細胞の違い ・細胞内の各器官の名称と役割 ・細胞膜の構造と働き
2	ユニット2 生物:生物体を構成する物質	講義	・タンパク質 ・脂質 ・糖質
3	ユニット3 生物:セントラルドグマ (遺伝情報)	講義	・DNAの情報をもとにタンパク質を生成する過程(セントラルドグマ)
4	ユニット4 生物:生体とエネルギー	講義	・ミトコンドリアの働き ・ATP ・TCAサイクル/電子伝達系
5	ユニット5 化学:物質の成り立ち	講義	・元素記号 ・元素表の値を利用した原子量や分子量の求め方 ・化学式
6	ユニット6 化学:濃度計算	講義	・重量パーセント ・容量パーセント ・フッ素塗布剤のフッ素濃度
7	ユニット7 化学:酸性・アルカリ性	講義	・生体各部や体液のpH ・pHの値と酸性・アルカリ性 ・ステファン曲線
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	キャリアデザイン Career design	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	不定期のため学年歴にて確認
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校専任教員。						
目的	キャリアデザインを通じ、自分の将来像を明確にする。						
科目概要	コース選択や社会人の基礎となる臨地臨床実習に向けての知識とスキルを身に付ける。						
到達目標	<p>なりたい歯科衛生士像を明確にし、実現するための知識とスキルを身につける。</p> <p>2年時のコース選択に向けて、コースに関わる業界について知る。</p> <p>登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ。</p>						
評価方法	<p>定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。</p> <p>■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()</p>						
教科書				事前事後 学習と その内容			
参考図書							
特記事項	1年次の1年間を通して不定期にて実施 日程詳細は学年歴を参照 欠席した場合は後日振替の講義を受ける必要がある。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	業界コラボ授業	演習	2年時のコース選択に向けて審美コースに関わる業界について知る
2	業界コラボ授業	演習	2年時のコース選択に向けて総合コースで関わる業界について知る
3	臨床実習の概要	演習	臨床実習の目的や時期、規則について知る
4	社会人としての身だしなみやマナー 臨床実習時の身だしなみ	演習	社会人としての身だしなみやマナーと臨床実習時の身だしなみを知る
5	登院式リハーサル	演習	登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ
6	登院式リハーサル	演習	登院式、臨地臨床実習に向けて身構え、気構え、心構えを持つ
7	登院式	演習	臨地臨床実習に向けての決意
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	情報処理 Information Processing	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責 任者	(株)ブレインスタッフコンサルタンツ
		授業形態	講義		有	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8		
単位		1					
講師紹介	滋慶学園グループのグループ企業(株)ブレインスタッフコンサルタンツに所属しているラーニングマネージャーが、在学習・就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。グループ校でも多くの授業を担当し、豊富な実務経験を有する。 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化したオリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用						
目的	基礎的なネットリテラシー、画像編集、動画作成を学び、就職後に役立つSNSスキルを習得する						
科目概要	Canvaを利用して簡単な画像や動画の編集ができるようになる。						
到達目標	・Canvaのアプリを活用して、画像編集、動画作成ができる						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 ■実技試験 □その他()						
教科書	オリジナルのe-learningテキストを使用			事 前 事 後 学 習 と そ の 内 容	準備物として、動画や写真を撮影してくる必要がある際には必ず準備をしてくること		
参考図書							
特記事項	動画をしながら、iPadやスマホの操作を行うため、自宅受講の場合は動画視聴用端末と操作用の端末を整える必要がある						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	講義	情報リテラシー、滋慶学園グループのIT理解度テスト
2	Gmailアカウントを取得し、受け取り手に好印象を与えるメールマナーを学ぶ	講義	Gmailアカウント取得、メールマナー
3	Jimdoを使ってホームページの作成を体験する	講義	ホームページ作成
4	Canvaアプリ取得+Canva画像加工	講義	Canvaのアプリを取得し、動画のサムネイルを作成できる
5	Canvaを使って動画を作成する	講義	動画を作成方法+音楽とリテラシー
6	Canvaを使って動画を作成する	講義	字幕の効果的なつけ方について学習する
7	Canvaを使って動画を作成する	講義	動画を効果的に魅せる方法について学習する
8	定期試験		実技試験・指定された動画を作製し提出する

科目名 (英)	コミュニケーションスキルアップ検定 Communication skill up certificate	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	花澤 真里子
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			集中講義、火曜日/1・2限:対面	
講師紹介	保有資格:2級キャリアコンサルティング技能士、メンタルヘルスマネジメント ラインⅡ種、AFP 国際線客室乗務員30年の経験を活かしたビジネスマナー、コミュニケーションを中心とした研修が得意である。JALでの客室訓練部教官経験を活かしJAL退職後の講師経験は14年以上で豊富な実務経験を有する。キャリアコンサルタントの資格を活かし、歯科医院での患者様対応研修、コミュニケーション研修、キャリアガイダンスや研修後のカウンセリング実績がある。						
目的	歯科衛生士としてだけでなく、社会人として通用するコミュニケーション力を身に付ける						
科目概要	①コミュニケーション力②基本的スキル③自己表現スキル④社会的スキル⑤サービスマインド`のスキルを付ける						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは具体的に何かを理解し、その手法を身に付ける。 ・コミュニケーションスキルを上げるベースには、マナーのスキルが必要だという事を理解し行動できるようになる。 ・社会人基礎力が何であるかを理解し、高める。 						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	コミュニケーションスキルアップ検定			事前事後 学習と その内容	各授業終了後に、翌日からの「行動目標」を考えていただく。		
参考図書							
特記事項	必要に応じて、パワーポイント資料を作成し使用する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションの定義 マナーの5原則	講義	自己紹介 コミュニケーションとは何か
2	コミュニケーションのプロセス 「話す」の基本	講義	1対1の会話 「話す」の基本
3	「聴く」の基本	講義	「聴く」スキルを磨く
4	上手な質問の仕方 相手の気持ちや考えを読み取る	講義	「質問」スキルを磨く
5	ノンバーバル・バーバルコミュニケーション	講義	好感を持たれる第一印象を身に付ける
6	グループでの会話	講義	グループでの会話力を磨く
7	人間関係を円滑にする表現技術	講義	人間関係の基礎を知る/頼み方、断り方、自己主張
8	中間テスト		筆記試験
9	仕事の基本「報告」「連絡」「相談」	講義	「ホウレンソウ」を理解する 「話す内容」を考え「プレゼンテーション」ができるようになる
10	会議でのスキルを付ける	講義	交渉・説得 「プレゼンテーション」する
11	アンガーマネジメント	講義	「怒りの感情」「怒り」との付き合い方を理解する
12	基本的な社会人スキル	講義	社会人としての「言葉遣い」を理解し、使えるようになる
13	電話対応	講義	電話の基本を学び、電話対応が上手にできるようになる
14	接客・患者様対応スキル	講義	患者様対応、接遇を身に付ける
15	メールのマナー 定期試験		筆記試験

科目名 (英)	一般教養 Basic education	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子/星野 悠
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			不定期のため学年歴にて確認	
講師紹介	菊池 麻衣子:一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校の特任教員。 星野 悠:総合病院、訪問歯科を主軸とする診療所、韓国の歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。2014年より歯科衛生士専任教員。多職種連携の現場経験より、それぞれのコデンタルが専門性の汎用を図るべく「考える力」を身につける必要があると考える。						
目的	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。						
科目概要	専門分野の学習を能動的に行うために必要な基礎知識を身に付ける。						
到達目標	日本医歯薬専門学校の学生・社会人・医療従事者としての知識やスキル、一般常識を身に着ける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書			事前事後 学習と その内容				
参考図書							
特記事項	1年次の1年間を通して不定期にて実施 日程詳細は学年歴を参照						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 4/8	学校生活について①	講義	学校生活のルールを理解する 3年間の決意を固める
2 4/11	学校生活について②	講義	学習能力テストを受験する 国家試験の概要を知る 学習習慣・授業の受け方・ノートの取り方
3 9/17	学校生活について③ 学習スケジュール	講義	後期のスケジュールを理解する 学習スケジュートを考える
4 9/17	学校生活について④ 学習スケジュール	講義	後期のスケジュールを理解する 学習スケジュートを考える
5 12/11	歯科医療現場を知る①	講義	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
6 12/11	歯科医療現場を知る②	講義	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
7 12/19	歯科医療現場を知る③	講義	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
8 12/19	中間テスト		筆記試験
9 12/20	社会人・医療人としての身だしなみ	講義	臨地臨床実習について 臨床実習への準備 身だしなみについて
10 12/20	歯科医療現場を知る④	講義	臨地臨床実習について 臨地臨床実習への準備
11 1/29or1/30	敬語の使い分け・一般マナー	講義	敬語・謙譲語・丁寧語の使い方 歯科医療現場での挨拶等のマナーについて
12 1/29or1/30	文章	講義	話し言葉と書き言葉 文章の書き方・考察の書き方
13 1/31or2/3	実習前教育①	講義	臨地臨床実習への身構え・気構え・心構えを整える
14 1/31or2/3	実習前教育②	講義	臨地臨床実習への身構え・気構え・心構えを整える
15 2/5	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	解剖学 Anatomy	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	中村 雅典
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	前半:水曜日/1限、2限:対面後半:水曜日/1限:オンライン、2限:対面
講師紹介	東北大学歯科病院で豊富な実務経験を有する。昭和56年東北大学歯学部卒業。昭和60年東北大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)。昭和60-62年南カリフォルニア大学留学。昭和60-平成5年東北大学歯学部・医学部助教。平成8年東北大学大学院医学系研究科准教授。平成13年一令和2年昭和大学教授(歯学部口腔解剖学講座)。現在 昭和大学客員教授、日本歯科大学客員教授。						
目的	正常な人体の構造を理解することは、疾患等の異常を知るための基本的知識です。本コースでは、歯科衛生士として必要な人体を構成する器官系の基本的構成を習得する。						
科目概要	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識の習得を目指す。歯科衛生士として必要な人体の正常構造の基本を理解する。						
到達目標	歯科衛生士として必要な人体の正常な細胞、組織と器官系の構造、ならびに人体の発生を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 医歯薬出版			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する知識確認項目ならびに小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学総論	講義	解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。
2	細胞の基本構造	講義	細胞の中にある基本的構造(細胞内小器官)と機能、ならびに細胞分裂について理解する。
3	組織の分類	講義	身体を構成する4つの組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)の構造と機能を理解する。
4	個体発生	講義	精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。
5	骨系	講義	身体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。
6	筋系	講義	筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。
7	脈管系	講義	脈管系の基本的な構造と機能を理解し、全身の血管系の名称を理解する。
8	中間テスト		1～7回目の内容について筆記試験を行う。
9	消化器系	講義	消化器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
10	呼吸器系	講義	呼吸器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
11	泌尿生殖器系	講義	泌尿器系及び生殖器系に属する各器官の基本構造と機能について理解する。
12	内分泌器系	講義	内分泌器系に属する各器官の構造と機能を理解する。
13	中枢神経系	講義	神経系について、基本的機能形態を理解するとともに、中枢神経系の名称と機能を理解する。
14	末梢神経系/感覚器系	講義	末梢神経系(運動神経、感覚神経、自律神経)の違いを理解し、全身に分布する神経の名称を理解する。ならびに、感覚器の機能、形態及び名称を理解する。
15	定期試験		9～15回目の内容について筆記試験を行う。

科目名 (英)	生理学 Physiology	年次	1	必修科目		科目 責任者	篠田 雅路
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月曜日/1限:オンライン, 2限:対面
講師紹介	歯学部卒業後、大学院歯科口腔外科にて歯科診療に従事し豊富な実務経験を有する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事した。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、臨床実地で必要な生理学の知識を教授する。						
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために、全身の生理学について修得する。						
科目概要	臨床実地で必要な生理学の知識						
到達目標	歯科衛生士として必要な生体の正常な機能を理解するために、細胞の機能から個体の行動に至る各レベルにおける正常な働きとそのメカニズムを知る。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科衛生士学シリーズ 人体の構造と機能1			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書	基礎歯科生理学						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞機能と体液	講義	生体恒常性を維持することの意義 細胞内液と細胞外液の組成の違い 体液浸透圧と酸塩基平衡
2	神経	講義	神経の基本的構造と機能 神経の情報伝達機構
3	感覚・運動	講義	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の定義とその分類 興奮収縮連関
4	血液・循環	講義	血液の組成と量 止血のメカニズム 循環調節機構
5	内分泌	講義	ホルモンの種類とその作用
6	消化・吸収・排泄	講義	消化・吸収・排泄に関連する生理機能と神経回路
7	呼吸・自律神経	講義	呼吸の神経調節機序 呼吸の化学的調節機序 異常呼吸
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	栄養生化学 Nutritional Biochemistry	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	山田 篤・今井 奨・広田 一男
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			前半:金曜日/1限:オンライン、2限:対面後半:火曜日/1限:オンライン、2限:対面	
講師紹介	山田篤:昭和大学歯学部口腔生化学講座・准教授、大学にて講義、実習、研究指導を行い豊富な実務経験を有する。 今井奨:元鶴見大学歯学部探索歯学講座学内教授、細菌生化学的研究と衛生・公衆衛生学、う蝕学、口臭予防の教育に従事し豊富な実務経験を有する。 広田一男:大手歯科メーカー勤務、多数の大学等での講義を行い豊富な実務経験を有する。						
目的	歯科衛生士として生化学的な基礎知識を身につける。 歯科医療の基本的な対象である歯と歯周組織について構造を理解する。石灰化、脱灰・再石灰化の内容、唾液やプラークがう蝕や歯周病の発症に深く関わることを理解する。基礎的なことをしっかり覚えたとうえで応用につなげるため、なぜ?という知的好奇心を忘れずに毎日地道な努力を重ねて欲しい。						
科目概要	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」I編 生命活動の概要、歯と口の生化学及び唾液、プラークの生化学を学ぶ。						
到達目標	栄養学および口腔生化学を中心に歯科衛生士として必要な栄養生化学を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝			事前事後 学習と その内容	事前学習として、授業範囲の教科書、配布資料に目を通しておく。事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	I編1章;生体における構成要素①	講義	1. オリエンテーション～生化学を学ぶ理由を考える～ 2. 細胞の役割を理解する。 3. 糖質の構造と種類を理解する。
2	I編1章;生体における構成要素②	講義	1. 脂質の構造と種類を理解する。 2. タンパク質の構造と役割を理解する。 3. ビタミン・ミネラルを理解する
3	I編2章;生体における化学反応①	講義	消化と吸収を理解する。
4	I編2章;生体における化学反応②	講義	代謝を理解する。
5	I編3章;糖質と脂質の代謝	講義	エネルギー代謝の全体像を説明できる。
6	I編4章;タンパク質とアミノ酸代謝	講義	1. タンパク質とアミノ酸の分解を理解する。 2. タンパク質の合成を説明できる。
7	I編5章;生体における恒常性の維持	講義	1. 恒常性について説明できる。 2. 1回～7回の授業を復習し、理解を深める。
8	中間テスト		・1回～7回の授業内容の中間テストを行い、その解説をする。
9	・歯と歯周組織の概略 ・結合組織の組成と機能 ・結合組織中のタンパク質	講義	・歯と歯周組織の名称、機能 ・上皮と結合組織の構造 ・コラーゲン線維の構造
10	・歯の組成、フッ素の役割 ・歯の無機成分と有機成分	講義	・歯の無機成分はヒドロキシアパタイト、フッ素は齲蝕抵抗性に寄与。 ・形成期エナメル質の有機成分は、アメロゲニン、エナメルン。 ・象牙質の有機成分はコラーゲン、象牙質シアロリタンパク質。
11	・硬組織の生化学 ・石灰化、脱灰・再石灰化の仕組み ・骨の生成と吸収	講義	・カルシウムの代謝(小腸→血液(一定濃度)→骨(貯蔵)→腎臓) ・血液中のカルシウム濃度は一定になる仕組み ・歯の再石灰化の仕組み
12	唾液の生化学	講義	・唾液中の無機質や有機質の種類 ・唾液中の無機質の作用 ・唾液中の有機質の作用
13	プラークの生化学1	講義	・プラークの組成と生物活性 ・プラークによるう蝕発症機構 ー多因子性疾患としてのう蝕ー ・う蝕予防方法
14	プラークの生化学2	講義	・歯周疾患におけるプラークのかかわり ・プラークによる口臭発症機構 ・歯周疾患と生体防御反応のかかわり
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯牙解剖 Dental Anatomy	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	野中 直子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	火曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	昭和大学歯学部口腔解剖学講座・教授【専門分野】解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学【保有資格】歯科医師免許・労働衛生コンサルタント。昭和大学歯学部卒業後は、昭和大学歯学部保存修復講座で診療に携わりながら、学生教育(講義・実習)を4年間担当し、その後は昭和大学大学院歯学研究科で口腔解剖学専攻。現在は解剖学・口腔解剖学・歯牙解剖学の講義・実習のほか、医療コミュニケーションの指導にも携わり、豊富な実務経験を有する。						
目的	歯科衛生士として必要な歯の形態学的特徴・機能学的意義を理解するとともに、ヒトの個々の歯を鑑別することができるようにする。						
科目概要	歯の形態について、乳歯・永久歯のそれぞれの形態的特徴を理解し、臨床の場に繋がられる知識を身に付ける。						
到達目標	歯科衛生士として臨床現場で必要となる歯の形態を理解することで、歯の表記法、歯の鑑別、配列と咬合、歯種別歯の形態、また歯の形態異常について理解する。また、この科目を通して学んだ知識をもとに、歯科医師と歯科衛生士とのコミュニケーションや歯科衛生士と患者さんとのコミュニケーションにも繋げるようにする。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯の解剖学(わかば出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習:その日の講義の部分を読んで予習してくる。 事後学習:歯の解剖学の章末についている「まとめ問題」と「自己学習のための図」を使用し復習し、わからないところはテキスト内で調べてみる。		
参考図書	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版)						
特記事項	歯牙模型						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の概論	講義	歯の解剖学入門、歯式、歯髄と歯髄腔などについて理解することができる。
2	永久歯(中切歯・側切歯・犬歯)	講義	上下顎前歯の形態学的特徴について理解することができる。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
3	永久歯(第一小臼歯・第二小臼歯)	講義	上下顎小臼歯の形態学特徴について理解できる。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
4	永久歯(上顎大臼歯)	講義	上顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。
5	永久歯(下顎大臼歯)	講義	顎大臼歯の形態学的特徴について理解する。歯の模型を使用し確認することで、歯の形態を理解することができる。上下顎・左右側の鑑別ができる。
6	乳歯(乳前歯・乳臼歯)	講義	上下顎乳前歯・乳臼歯の形態学的特徴について理解する。乳歯の模型を使用し確認することで、乳歯の形態を理解することができる。また永久歯との違いを理解する。
7	歯の配列と咬合・歯の異常	講義	歯の配列と咬合を理解する。異常歯について理解する。1～6回のまとめ、質疑応答。
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	口腔解剖学 Oral Anatomy	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	中村 雅典
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	前半:水曜日/1限:オンライン、2限:対面後半:木曜日/1限:オンライン、2限:対面
講師紹介	東北大学歯科病院で豊富な実務経験を有する。昭和56年東北大学歯学部卒業。昭和60年東北大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)。昭和60-62年南カリフォルニア大学留学。昭和60-平成5年東北大学歯学部・医学部助教。平成8年東北大学大学院医学系研究科准教授。平成13年一令和2年昭和大学教授(歯学部口腔解剖学講座)。現在 昭和大学客員教授、日本歯科大学客員教授。						
目的	歯と歯周組織ならびに口腔を構成する構造を理解することは、歯科衛生士を含む歯科医療に従事するすべての職種に必要な不可欠なことです。このユニットでは、解剖学的な構造だけでなく、ここで学ぶ知識が臨床でどのように役立つのか、また、全身との関連性を含めて講義を行う。						
科目概要	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識の習得を目指す。歯科衛生士として必要な人体の歯、歯周組織ならびに口腔の基本を理解する。						
到達目標	歯科衛生士として必要な口腔の基本的構造(歯、歯周組織を含む)ならびに顎顔面口腔の発生を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 医歯薬出版			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する知識確認項目ならびに小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	エナメル質	講義	エナメル質の特徴、構造について理解する。
2	象牙質・歯髄複合体	講義	象牙質、歯髄の特徴、構造について理解する。
3	歯周組織①	講義	セメント質、歯根膜、歯槽骨の特徴、構造について理解する。
4	歯周組織②/歯の発生①	講義	歯肉の特徴、構造について理解する。 歯胚の発生と構成する組織を理解する。
5	歯の発生②/歯の交換と萌出	講義	歯根の形成機序を理解する。 代生歯および加生歯の発生ならびに歯の萌出、脱落と交換について理解する。
6	顎顔面口腔の発生	講義	顎、顔面、口腔の発生過程を理解する。
7	口腔内臓	講義	口腔を構成する器官の種類とその構造を理解する。
8	中間テスト		1~6回目の講義内容について筆記試験を行う。
9	歯科領域に必要な骨①	講義	頭蓋骨の全体での構造、ならびに上顎骨・下顎骨の構造を理解する。
10	歯科領域に必要な骨②	講義	蝶形骨、側頭骨の構造を理解する。 翼口蓋窩と周囲との連絡を理解する。顎関節の構造を理解する。
11	歯科領域に必要な筋	講義	咀嚼筋、表情筋、舌骨上筋ならびに舌骨下筋の位置と働き(顎運動)を理解する。
12	歯科領域に必要な血管	講義	口腔領域に分布する血管(総頸動脈、内頸動脈、外頸動脈)の走行と分布を理解する。
13	歯科領域に必要な神経	講義	口腔領域に分布する脳神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経)と脊髄神経(頸神経、自律神経)の走行と分布を理解する。
14	唾液腺/咽頭と喉頭の構造	講義	唾液腺の種類とその特性、神経支配を理解する。 咽頭と喉頭の構造の構造と嚥下に関する筋理解する。
15	定期試験		7回目以降の内容について筆記試験を行う。

科目名 (英)	口腔生理学 Oral Physiology	年次	1	必修科目		科目 責任者	篠田 雅路
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	月曜日/1限:オンライン, 2限:対面
講師紹介	歯学部卒業後、大学院歯科口腔外科にて歯科診療に従事し豊富な実務経験を有する。生理学・神経科学をより深く学ぶために歯科医師を続けながら大学院へ進学。大学院修了後は米国ピッツバーグ大学にて疼痛メカニズムの研究に従事した。2020年より日本大学歯学部生理学講座主任教授。2022年より歯科衛生士学科非常勤講師。歯科臨床医の経験がある基礎歯学研究者として、臨床実地で必要な生理学の知識を教授する。						
目的	正常な口腔機能の形成と維持を目標とする歯科医学の基礎知識を習得するために、咀嚼器官である顎顔面口腔領域の運動、感覚、自律機能について修得する。						
科目概要	臨床実地で必要な口腔生理学の知識						
到達目標	運動機能としては顎、舌、顔面の運動機構、感覚機能としては顎顔面口腔領域の体性感覚、味覚、嗅覚のメカニズム、さらに自律性機能である唾液の働きを理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科衛生士学シリーズ 歯・口腔の構造と機能			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書	基礎歯科生理学						
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生理学の復習	講義	基本的な感覚生理学 基本的な運動生理学
2	歯と口腔の体性感覚	講義	口腔感覚の発現に関与する神経回路 歯髄感覚、歯根膜感覚および口腔顔面痛の受容機構
3	味覚・嗅覚	講義	味蕾を構成する細胞の種類と機能 味蕾の分布様式味受容体の種類とその特徴 味覚に関与する脳神経とその支配領域
4	咬合と顎運動	講義	末梢感覚の顎運動制御 顎運動発現に関与する神経回路
5	咀嚼・嚥下	講義	咀嚼・嚥下運動と咀嚼筋、顎関節、顔面筋などの協調 咀嚼・嚥下運動に関与する神経回路
6	吸啜・嘔吐・発声	講義	吸啜運動の意義 嘔吐動作および発生に関連する生理機能と神経回路
7	唾液	講義	唾液の生理作用 唾液の分泌機構と全身疾患との関連性
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	病理学・口腔病理学 Pathology/OralPathology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	太田裕崇
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月曜日/1限:オンライン、2限:対面
講師紹介	日本大学歯学部卒業、日本大学大学院歯学研究科修了(歯科医師、博士(歯学))。2017～2020年 日本大学歯学部附属歯科病院病理診断科臨時専修医。2021年より昭和大学医学部臨床病理診断学講座助教。昭和大学病院や昭和大学藤が丘病院にて学生教育や病理診断に豊富な業務経験を有する。その他、都内歯科医院にて訪問歯科診療に従事している。						
目的	病理学は病気の原因を研究する基礎医学と、病気の診断を行う臨床医学の両方を併せもつ学問である。病理診断は最終的な診断を下すという責任重大な業務で患者さんの予後に影響する。講義では病理診断で得られる知識が、治療とどのように関わっているか紹介する。病理学で学んだ知識を臨床で役立ててもらふ事を目的とする。						
科目概要	病気の基本的な成り立ちを学ぶ病理学と、口腔領域にみられる口腔病理学で構成している。						
到達目標	①病理学で使われる専門用語を習得する ②口腔領域にみられる病態を系統立てて理解する ③病理検査の実施方法を理解する						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学			事前事後 学習と その内容	毎回配布する講義資料は教科書の内容を系統立ててまとめている。講義ではそれぞれの内容についてどのように理解すべきかを教授する。講義内容を聞き漏らさず、資料の空欄に書き込み理解の向上に努めること。		
参考図書							
特記事項	講義では実際の症例を多く供覧する。個人情報保護の為、撮影録画は禁止とする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	病理学総論 1章 病理学序論と病因論 病理学総論 2章 遺伝性疾患と奇形 口腔病理学 11章 口腔領域の奇形	講義	病理学とは何か、病理における診断業務の重要性 遺伝性疾患と奇形(口腔領域も含む)について
2	病理学総論 3章 循環障害	講義	循環障害の概要
3	病理学総論 4章 代謝障害と退行性病変 病理学総論 5章 増殖と修復	講義	代謝障害と退行性病変について 進行性病変について
4	病理学総論 6章 炎症と免疫応答	講義	免疫応答異常と炎症の概略
5	病理学総論 6章 炎症と免疫応答 病理学総論 5章 増殖と修復	講義	炎症の機序と再生と修復までの流れ
6	病理学総論 7章 腫瘍	講義	腫瘍の定義 細胞診および組織診の取り扱い、検査の依頼から結果報告までの流れについて
7	口腔病理学 1章 歯の発育異常 口腔病理学 2章 歯の損傷と着色・付着物 口腔病理学 12章 口腔組織の加齢変化	講義	歯にみられる代表的な異常形態 歯の損傷や着色について 加齢に伴う口腔内の変化について
8	中間テスト(試験終了後解説+講義)		中間テスト(筆記試験 第1回～7回から出題) 試験終了後解説を行う
9	口腔病理学 3章 う蝕 口腔病理学 4章 象牙質・歯髄複合体の病態	講義	う蝕の発生機序と分類について 歯髄炎の発生機序と分類について
10	口腔病理学 5章 歯周組織の病態 口腔病理学 9章 顎骨の病変	講義	根尖性歯周炎と骨髄炎の機序について
11	口腔病理学 5章 歯周組織の病態	講義	歯肉炎と歯周炎の違いについて
12	口腔病理学 6章 口腔粘膜の病変 口腔病理学 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍	講義	口腔粘膜にみられる疾患 口腔領域にみられる嚢胞
13	口腔病理学 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 口腔病理学 8章 口腔癌	講義	口腔領域にみられる良性腫瘍と悪性腫瘍
14	口腔病理学 9章 顎骨の病変 口腔病理学 10章 唾液腺の病変	講義	顎骨病変(良性腫瘍)と唾液腺病変(良性腫瘍と悪性腫瘍)
15	定期試験		筆記試験(第1回～14回全範囲から出題)

科目名 (英)	薬理学・歯科薬理学 Pharmacology /Dentistry Pharmacology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 敏夫
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	前半:火曜日/1限:オンライン、2限:対面後半:火曜日/1限:対面、金曜日/2限:対面
講師紹介	薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な薬理学・歯科薬理学を講義し豊富な実務経験を有する。日本歯科大学名誉教授、専門分野:生理学、衛生学、薬理学。研究分野:骨代謝のメカニズムの解明、口臭による歯周疾患発生メカニズム。						
目的	歯科衛生士が歯科保健・歯科医療に携わる保健・医療チームの一員として、特に医療現場で必要な薬物の知識と技術能を養うことを目的とする。						
科目概要	わが国は高齢化社会を迎え、高血圧、心疾患他の循環器系疾患、生活習慣病患者が増加し、患者は多種類の薬を服用している。それら患者が歯科受診するケースも増え、多種類の薬が歯科治療に影響する薬の相互作用の知識を深める。						
到達目標	薬理学を通して基礎と臨床の接点を理解し、歯科治療に利用される薬物だけではなく、全身疾患への治療薬の知識を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版			事前事後 学習と その内容	授業毎に、その内容の理解度を評価する小テストを実施する。		
参考図書							
特記事項	全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版。授業はPowerPointならびに板書で説明する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	薬物と薬理作用様式	講義	薬物の定義と薬物療法及び作用形式、用量反応関係について。
2	薬物の適用と生体への影響	講義	薬物動態、適用方法及び薬物作用に影響する因子について。
3	薬物の取り扱いと薬物関連法規	講義	医薬品の分類と取り扱い、薬物の分類・表示・保管方法。医薬医療機器法における医薬品、医薬部外品等について。
4	中枢神経系に作用する薬	講義	中枢神経系に関連する薬物について。
5	末梢神経系に作用する薬	講義	末梢神経系の制御機構と末梢神経系に作用する薬物について。
6	局所麻酔薬	講義	局所麻酔薬の作用機序および構造・分類について。
7	消化器系及び血液に関連する薬	講義	消化器系に関連する薬物について。血液凝固メカニズムと血液凝固薬及び血液に関連する薬物について。
8	中間テスト及び解説		筆記試験
9	呼吸器系・循環器系に関連する薬	講義	循環器系の代表的疾患及び循環系疾患薬とその作用機構について。呼吸器系疾患とその治療薬について。
10	抗炎症に関連する薬	講義	炎症のメカニズム及び抗炎症薬について。
11	感染症に関連する薬	講義	病原微生物の特性、抗感染症薬の作用機序と副作用について。
12	消毒薬	講義	消毒薬抗菌スペクトル別に分類、ならびに消毒薬の特性と利用法について。
13	内分泌系およびビタミン関連薬	講義	内分泌性疾患のホルモン薬治療について。ビタミン剤の種類と特性について。
14	口腔疾患に関連する薬	講義	ウ蝕予防のフッ化物製剤と口腔関連治療薬について。
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	微生物学・口腔微生物学 Microbiology/Oral Microbiology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉森 賢司
		授業形態	講義	有			
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	前半:火曜日/1限:対面授業、2限:オンライン後半:火曜日/2限:対面、金曜日/1限:対面
講師紹介	北里大学にて微生物学を学ぶ。研究室では主に麻疹ウイルスや亜急性硬化性全脳炎(SSPE)に関する研究を行なった。卒業後、日本歯科大学細菌学教室に助手として勤務し、口腔トレポネーマや放線菌の免疫学的研究を行った。東邦大学医学部に移籍後、約40年間温泉をフィールドとし、「特殊な環境に生息する微生物」に関する研究といった豊富な実務経験を有する。その事が評価され、環境大臣表彰をいただいた。						
目的	医学・歯学の領域で働く者にとって、微生物学は必要不可欠な知識として習得しなくてはならない。一方、ヒトは生きていく上で微生物と深い関わりがあり、日常生活においても常識的に正しい微生物の知識を得ることは重要であるが、特に歯科衛生士としての業務上、微生物の特性、免疫学的知識、感染予防等の知識は重要である。また、齲蝕や歯周病予防を目的とした口腔ケアを行う際の重要な知識を得るための学問である。						
科目概要	微生物学の基礎、感染症の成り立ち、口腔微生物と疾患について学び、関連性のある免疫学、化学療法学、口腔ケアの必要性についても学習する。						
到達目標	主に口腔微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、広く微生物に関する基礎知識や微生物が関与する全身疾患と病態を解説することができる。また、微生物感染症に伴う生体防御機構や薬剤の効果等についても説明ができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	予習としてすることは「どのような内容の講義を受講するか」の概要を知る。本教科は微生物の学名や特殊な専門用語を多数学習しなくてはならない科目なので、授業終了後、授業内容をしっかりと復習する。大切な用語はしっかりと習得する。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	微生物学・口腔微生物学概論	講義	・微生物学の歴史と微生物に関する基本的な内容を知る。 ・微生物感染と感染症に関する基礎を知る。
2	微生物の分類 真核生物と原核生物(細菌)の構造	講義	・真核生物と原核生物の構造の違いを理解する。 ・微生物を分類(原虫、真菌、細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス)する
3	細菌の代謝 微生物学各論(細菌学その1)	講義	・細菌の代謝と増殖について知る。 ・細菌の病因因子について知る。 ・病原性がある細菌(グラム陽性球菌とグラム陽性桿菌)について知る。
4	微生物学各論(細菌学その2、マイコプラズマ)	講義	・病原性がある細菌(グラム陰性球菌とグラム陰性桿菌)について知る。 ・マイコプラズマについて知る。
5	微生物各論1 (リケッチア、クラミジア、ウイルス)	講義	・リケッチア、クラミジアについて知る。 ・ウイルスの性状、構造、増殖について知る。 ・歯科領域に関連したウイルス感染症(ヘルペス、ピコルナ、パラミクソ、風疹)について知る。
6	微生物各論2(ウイルス、真菌他、プリオン) 免疫学概論	講義	・歯科領域に関連したウイルス感染症(インフルエンザ、レトロ、肝炎)について知る。 ・病原性真菌、原虫、プリオンについて知る。 ・免疫機構(宿主防御機能、免疫学の基本)を知る。
7	免疫学 1	講義	・免疫の種類(自然免疫と獲得免疫、体液性免疫と細胞性免疫、粘膜免疫)について知る。 ・免疫担当細胞について知る。 ・抗原と抗体について知る。
8	中間テスト		
9	免疫学 2	講義	・抗原抗体反応について知る。 ・細胞性免疫と液性免疫について知る。 ・アレルギーの分類(I型、II型、III型、IV型)について知る。
10	免疫学 3 口腔微生物 1	講義	・アレルギーの分類(I型、II型、III型、IV型)について知る。 ・口腔細菌叢について知る。 ・デンタルプラークの形成機序、微生物叢の変化について知る。
11	口腔微生物 2	講義	・口腔感染症(齲蝕と歯周病)の発生機序とその原因菌について知る。
12	口腔微生物 3	講義	・その他重要な口腔感染症について知る。
13	化学療法 院内感染	講義	・化学療法と化学療法剤の作用機構について知る。 ・院内感染機構とその対策について知る。
14	滅菌と消毒 細菌の培養および微生物の観察法 微生物学・口腔微生物学のまとめ	講義	・滅菌と消毒の違いとその方法を知る。 ・細菌の培養法と観察の方法について知る。 ・歯科衛生士として知るべき微生物の知識を総括する。
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	口腔衛生学 I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	角田 衣理加
	Oral Hygiene I	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	水曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	歯科大学教員として、長年、衛生学・口腔衛生学・口腔微生物学の学生教育に携わるだけでなく、歯科疾患実態調査精密調査委員や世界保健機関(WHO)ジュネーブ本部コンサルタントの経験を持つ。歯科医師としては、大学附属病院では予防歯科や口臭外来、地域歯科を主軸とする診療所では一般歯科診療および歯科訪問診療といった豊富な実務経験を有する。 資格:日本口腔衛生学会 歯科公衆衛生専門医・指導医						
目的	歯科衛生士は、歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを目的として定められた国家資格であり、口腔衛生学はその基盤となる知識の根幹を担う学問の1つである。そのため、基礎から臨床領域と多岐にわたる内容を熟知・修得することを目的とする。						
科目概要	口腔衛生学の全体像を理解するために、歯の発生から口腔清掃などの知識を習得する。						
到達目標	歯科衛生士は、歯・口腔の健康を通じて、保健と福祉に寄与する使命を持つ。口腔衛生学を修得する中で、歯科疾患の予防に真摯に向き合う姿勢を育む。具体的には歯の付着物、特にプラークの形成過程を理解することにより、口腔清掃の意義を理解し、口腔清掃について学び、歯磨剤・洗口剤の組成を理解する。さらに、う蝕と歯周疾患をはじめとする様々な疾患・異常の発生要因・予防法の実践を学び、理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新衛生士教本 保健生態学			事前事後 学習と その内容	事後学習として、講義の最後に実施する小テストを教科書を用いて復習し、講義で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料、個人識別可能な画像があるため、写真撮影を不可とする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	歯・口腔の健康 歯・口腔の機能 歯・口腔の発生と成長・発育・機能
2	歯・口腔の付着物・沈着物	講義	ペリクル・プラーク マテリアアルバ・歯石・舌苔 外来性色素沈着物
3	歯科疾患の疫学	講義	う蝕の疫学 歯周病の疫学 歯の喪失・その他の疫学
4	口腔清掃1	講義	口腔清掃の意義 口腔清掃法 機械的清掃法と用具
5	口腔清掃2	講義	不適切な口腔清掃による為害作用 歯磨剤と洗口液
6	う蝕の予防1	講義	う蝕発生と進行のメカニズム う蝕の分類と症状 う蝕の発生要因
7	う蝕の予防2	講義	う蝕活動性試験 う蝕の予防方法
8	中間テスト		筆記試験(前半講義内容より出題) 中間テスト解説
9	フッ化物によるう蝕予防1	講義	わが国のフッ化物応用 フッ化物の一般性状と用語 フッ化物の摂取基準と代謝・毒性
10	フッ化物によるう蝕予防2	講義	フッ化物応用によるう蝕予防方法 フッ化物のう蝕予防メカニズム
11	歯周疾患の予防1	講義	歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序
12	歯周疾患の予防2	講義	歯周疾患の全身に与える影響 歯周疾患の予防手段と処置
13	その他の疾患・異常の予防1	講義	不正咬合の予防 口臭の予防
14	その他の疾患・異常の予防2	講義	その他の歯科疾患・異常の予防
15	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲より出題)

科目名 (英)	歯科臨床概論 Dentistry Clinical Outline	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	須田 英明
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	歯科医師として1974～2014年の40年間、東京医科歯科大学で教育・研究・臨床・運営に携わり、歯科衛生士教育を含む豊富な実務経験を有する。2015年より日本医歯薬専門学校/東京医歯薬看護専門学校の学校長を務める。						
目的	歯科臨床系各分野の診療内容と診療の流れを理解する。						
科目概要	歯科臨床の全体像、および歯科臨床における歯科衛生士の役割を総合的に理解するためのオリエンテーション。						
到達目標	歯科衛生士として必ず知っておくべき歯科臨床に関する基本的知識を身につける。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論, 第2版, 医歯薬出版.			事前事後 学習と その内容	各回の授業において、自習問題(10問)をTEAMS上にアップロードするので、授業中に実施した小テスト問題(10問)とともに事後学習に役立て、知識の定着をはかること。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療と歯科診療所	講義	歯科診療とは、歯科診療所、歯科診療所における業務
2	ライフステージと歯科診療 診査・検査・前処置	講義	各ライフステージにおける歯科の役割 患者さんの受付から診療終了までの流れ バイタルサイン、口腔内の観察・検査、画像検査、痛みのコントロール
3	小児歯科 歯科矯正	講義	小児歯科とは、口腔の先天異常、口腔機能の発達、う蝕予防処置 歯科矯正とは、不正咬合と矯正歯科治療、矯正歯科治療の概要
4	口腔外科	講義	口腔外科とは、歯科的外傷の治療、普通抜歯、智歯の抜歯、口腔粘膜疾患の処置
5	歯科保存 歯周治療(1)	講義	歯科保存とは、象牙質知覚過敏症、歯冠部う蝕、根面う蝕、歯内療法、歯のホワイトニング 歯周治療とは、歯周病と全身疾患
6	歯周治療(2) 歯科補綴	講義	歯周基本治療、歯周外科治療、メンテナンス 歯科補綴とは、クラウン・ブリッジ、有床義歯、インプラント
7	障害者歯科 高齢者歯科	講義	障害者歯科とは、高齢者歯科とは 摂食嚥下障害への対応、全身疾患への対応、周術期の対応、歯科訪問診療
8	定期試験		筆記試験(多肢選択形式の問題を出題)

科目名 (英)	歯科衛生士概論 Outline of Dental Hygienist	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	星野 悠
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	総合病院、訪問歯科を主軸とする診療所、韓国の歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。2014年より歯科衛生士専任教員。多職種連携の現場経験より、それぞれのコデンタルが専門性の汎用を図るべく「考える力」を身につける必要があると考える。						
目的	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。						
科目概要	歯科衛生学の全体像を理解するための、歯科衛生士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。						
到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後を実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生学とは	講義	歯科衛生と健康 歯科衛生活動の対象 歯科衛生活動の領域
2	歯科衛生士の歴史/海外における歯科衛生士	講義	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生の背景 海外の歯科衛生士の現状
3	歯科衛生活動の理論	講義	予防の概念 歯科衛生士の考え方(科学的思考)
4	歯科衛生過程	講義	歯科衛生過程とは 以下衛生過程活用の利点 歯科衛生過程の流れ
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務	講義	歯科衛生士と歯科衛生士法 歯科衛生の役割 安全管理
6	歯科衛生士と医療倫理	講義	医の倫理と患者の権利 対象の自己決定権の尊重 インフォームド・コンセント
7	歯科衛生士の活動と組織	講義	歯科衛生活動の現状 歯科衛生士と組織
8	定期試験		筆記試験(講義内容全範囲から出題)

科目名 (英)	歯科予防処置論 I Dentistry Prevention Measures Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	金曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校の専任教員。						
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。						
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置を行うにあたり基礎的な知識理解する。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社			事前事後 学習と その内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる		
参考図書	『歯周病学』医歯薬出版株式会社						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科予防処置の概要	演習	歯科予防処置の概念と内容を概説できる 歯科予防処置の法的位置づけを説明することができる 歯科予防処置の範囲と業務を概説できる
2	口腔の基礎知識	演習	歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる
3	口腔内の付着物・沈着物	演習	口腔内の付着物、沈着物の種類と成分を説明できる プラークの形成過程と成分を説明できる 歯石の形成過程と成分を説明できる
4	う蝕について (分類・原因・プロセス)	演習	う蝕とは何かを説明することができる う蝕の原因・発生・進行について理解する う蝕の予防法について理解し、う蝕予防処置の応用方法を挙げることができる
5	歯周病の基礎知識について	演習	歯周病の原因・発生・進行を理解する 歯肉炎と歯周炎の違いを挙げることができる 歯周疾患が全身に与える影響について理解する
6	歯・歯周組織の検査 (口腔内診査)	演習	口腔内の観察項目とポイントを列挙できる 検査使用器具の使用目的、種類、基本操作、測定部位等を理解する
7	歯・歯周組織の検査 (プロービング)	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅱ Dentistry Prevention Measures Theory II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1・2限目:対面
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校専任教員。						
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。						
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的な歯・歯周組織の検査/スケーリングの知識と技術を身につける。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社			事前事後 学習と その内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること		
参考図書	『歯周病学』医歯薬出版株式会社						
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習オリエンテーション	演習	5F・6F実習室の使用方法を理解する 実習時の身だしなみについて理解をする
2	歯・歯周組織の検査 (プロービング)	演習	歯周プローブの使用目的、種類、基本操作、測定部位を理解する プロービング圧を理解する 歯周プローブの目盛りの読み方を理解する
3・4	手用スケーラーについて	演習	手用スケーラーの種類と使用目的を説明できる 手用スケーラーの構成、把持、固定、手指の動かし方や操作方法を理解する
5・6	シクルタイプスケーラー マネキン実習 1	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎前歯部(唇側・舌側)のシクルタイプスケーラー操作
7・8	中間テスト シクルタイプスケーラー マネキン実習 2	演習	筆記試験 施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎前歯部(唇側・口蓋側) シクルタイプスケーラー操作
9・10	シクルタイプスケーラー マネキン実習 3	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部舌側 下顎左側臼歯部頬側 シクルタイプスケーラー操作
11・12	シクルタイプスケーラー マネキン実習 4	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 下顎右側臼歯部頬側 下顎左側臼歯部舌側 シクルタイプスケーラー操作
13・14	シクルタイプスケーラー マネキン実習 5	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部頬側 上顎左側臼歯部口蓋側 シクルタイプスケーラー操作
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ Dentistry Prevention Measures TheoryⅢ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15		後期
		単位	2			曜日/時間	
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校専任教員。						
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。						
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスクレーリング/歯面研磨、口腔内洗浄の知識と技術を身につける。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社			事前事後 学習と その内容	専門用語が多く出てくる科目であるため、事前にコマシラバスを確認し該当教科書ページに目を通しておくと、より理解を深める事ができる。また実習時には講義/実技の復習をして授業に参加する習慣をつけること		
参考図書	『歯周病学』医歯薬出版株式会社						
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	シックルスクレーラー マネキン実習 6	演習	施術時の術者の位置、患者の位置、ヘッドレストの設定、頭部の角度を理解する 上顎右側臼歯部口蓋側 上顎左側臼歯部頬側
3・4	シックルスクレーラー マネキン実習 7 歯面研磨、口腔内洗浄、貼薬 講義	演習	シックルタイプスクレーラー操作総復習 歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる
5・6	歯面研磨、口腔内洗浄 実習	演習	歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる 歯面清掃機材の種類と使用方法を説明できる 歯面清掃・歯面研磨を実践できる
7・8	中間テスト キュレットタイプスクレーラー 講義	演習	キュレットタイプスクレーラーの種類、形状、特徴を理解する
9・10	キュレットタイプスクレーラー マネキン実習 1	演習	キュレットタイプスクレーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎前歯部(唇側・舌側)・上顎前歯部(唇側・口蓋側)
11・12	キュレットタイプスクレーラー マネキン実習 2	演習	キュレットタイプスクレーラーの種類、形状、特徴を理解する 下顎臼歯部
13・14	キュレットタイプスクレーラー マネキン実習 3	演習	キュレットタイプスクレーラーの種類、形状、特徴を理解する 上顎臼歯部
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅳ Dentistry Prevention Measures Theory IV	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	火・金曜日/1・2限目:対面
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校専任教員。						
目的	【歯科予防処置】は歯科衛生士法が制定された1948年に一番最初に定められた業務である。口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を予防する知識と技術を身につける。						
科目概要	歯科衛生士として歯科予防処置するにあたり基本的なスクレーピング/歯面研磨、口腔内洗浄の知識と技術を身につける。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』 医歯薬出版株式会社			事前事後 学習と その内容	実習で使用する教材の忘れ物、実習時の身だしなみ不備で授業に参加ができない場合は見学となるため、事前にコマシラバスを確認し、忘れ物などの準備不足がないようにすること		
参考図書	『歯周病学』 医歯薬出版株式会社						
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出すること						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	パワースケーラー・歯面清掃器	演習	超音波スケラー、エアスケラー、歯面清掃器の使用目的や特徴、使用時の留意点 準備・後片付けの方法
3・4	相互実習 講義	演習	標準予防策、感染防止の3原則 相互実習における感染基本対策、ルール、実習当番の役割 臨床現場における感染対策の重要性
5・6	相互実習 講義	演習	口腔内観察の項目 健康な歯肉の状態、異常 歯周検査やPCRなどの記録
7・8	中間テスト 相互実習に向けたグループワーク	演習	筆記試験 相互実習における役割理解のためのグループワーク
9・10	相互実習 口腔内観察 エクスプローラー	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エクスプローリングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
11・12	相互実習 プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エクスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
13・14	相互実習 プロービング	演習	相互実習における感染基本対策、ルールの実践 口腔内観察、エクスプローリング、プロービングの実践 感染対策を遵守した後片付けの実践
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科保健指導論 I Dentistry Health Guidance Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	ディーン 宮仁子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	月曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を持つ。						
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う						
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得						
到達目標	歯科保健指導(口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術)を理解する						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (歯科衛生士教本)			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科保健指導論の概要 健康の概念	演習	歯科保健指導の意義と特性 歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 健康の定義 ヘルスプロモーション 口腔健康管理
2	食生活指導のための基礎知識①	演習	国民の健康と栄養の現状
3	食生活指導のための基礎知識②	演習	食品とう蝕の関連性
4	食生活指導のための基礎知識③	演習	食品と歯科疾患の関連性
5	保健行動支援のための基礎知識	演習	歯科保健指導に関わる理論と行動変容
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理①	演習	情報収集 医療面接
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理②	演習	全身の健康状態の把握 認知機能の把握 生活環境の把握 生活習慣の把握
8	中間テスト		1～7回の内容から筆記試験にて実施
9	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理③	演習	分析のためのデータ(口腔衛生状態の指数)
10	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理④	演習	分析のためのデータ(歯周疾患の指数)
11	口腔衛生管理①	演習	ブラッシング(歯ブラシ・ブラッシングの方法)
12	口腔衛生管理②	演習	その他の清掃法(フロッシング・歯間ブラシ・タフトブラシ)
13	口腔衛生管理③	演習	歯磨剤・洗口剤
14	口腔衛生管理④	演習	ブラッシング実習
15	定期試験		1～14回の内容から筆記試験にて実施

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅱ Dentistry Health Guidance Theory TrainingⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	ディーン 宮仁子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月曜日/1限:対面、2限:オンライン
講師紹介	フリーランスの歯科衛生士として小児から高齢者まで広く口腔健康管理に携わる。歯科衛生士養成機関での講師歴は15年以上。歯科医療現場、教育現場それぞれに豊富な実務経験を持つ。						
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う。						
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得。						
到達目標	歯科保健指導(口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術)を理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (歯科衛生士教本)			事前事後 学習と その内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔の基礎知識	演習	口腔機能 摂食嚥下のしくみ
2	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理⑤	演習	口腔の機能的問題の把握
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	妊産婦期の口腔健康管理
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	乳児期～幼児期の口腔の特徴と口腔衛生管理
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	乳児期の口腔機能と食生活指導
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	幼児期の口腔機能と食生活指導
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	学齢期の口腔健康管理 口腔機能発達不全症に関する指導
8	中間テスト		1～7回の内容から出題
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	青年期 禁煙指導
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	成人期の口腔衛生管理
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	成人期の食生活指導 非感染性疾患
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	老年期の口腔衛生管理および口腔機能管理
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	老年期の食生活指導
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入	演習	要介護高齢者に対する口腔健康管理
15	定期試験		1～14回の内容から出題

科目名 (英)	栄養指導 Nutrition Counselling	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	矢野 文子
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	1			曜日/時間	水曜日/1限:オンライン、2限:対面
講師紹介	昭和大学歯学部口腔生化学講座/東京大学医学部附属病院整形外科 研究員 歯科医師免許、口腔外科認定医 昭和大学歯学部で生化学や国家試験対策講義、大学院生の研究指導を主に行っていますが、新宿の歯科医院で顕微鏡を使った、一般歯科治療からアライナー矯正、インプラントまで幅広く行うなど、豊富な実務経験を有する。						
目的	歯科衛生士として口腔・栄養指導が行えるようになることを目的とし、口腔環境の改善による歯・歯周病の予防のみならず全身状態の改善にも繋がることを学ぶ。						
科目概要	栄養の基礎知識、食事摂取基準、栄養素の働きについて学ぶ。						
到達目標	①栄養の基礎知識について理解する ② 食事摂取基準について理解する ③栄養素の働きについて理解する④食生活と健康について理解する ⑤食べ物と健康について理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社			事前事後 学習と その内容	授業の復習をその日のうちにしておくこと。わからない箇所は必ず質問してください。授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行います。		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Ⅲ編1章; 栄養の基礎知識(Ⅰ: 食生活と栄養Ⅱ: 栄養素の消化・吸収)	講義	栄養の基礎知識について理解する(教科書p116-127) 1.日本人の栄養摂取状況について説明できる。 2.体格指数(BMI)の計算ができる。 3.栄養素の消化と吸収を理解する。
2	Ⅲ編2章; 食事摂取基準①(Ⅰ: 食物のエネルギーⅡ: 基礎代謝Ⅲ: エネルギー必要量)	講義	食事摂取基準について理解する(教科書p128-133) 1.食物のエネルギー量の計算ができる。 2.基礎代謝量について説明できる。 3.エネルギー必要量を理解する。
3	Ⅲ編2章; 食事摂取基準について理解する(Ⅲ: 日本人の食事摂取基準)	講義	食事摂取基準について理解する(教科書p133-139) 1.「日本人の食事摂取基準」の各指標が説明できる。 2.PDCAサイクルについて説明できる。
4	Ⅲ編3章; 栄養素の働きについて理解する(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル、水、食物繊維の栄養的意味)	講義	栄養素の働きについて理解する(教科書p140-174) 1.単糖類・二糖類・多糖類・甘味料の分類 2.必須アミノ酸・タンパク質の推奨量 3.脂質の分類、飽和脂肪酸・必須脂肪酸の働き 4.主なビタミンと欠乏症 5.主なミネラルとその働き
5	Ⅳ編1章; 食生活と健康について理解する	講義	国民の健康と栄養、望ましい食生活、ライフステージ別の栄養と調理(教科書p178-184) 1.日本人の死因の順序を答えられる。 2.現代の国民栄養の課題を説明できる。 3.国民健康・栄養調査4. 健康日本21(第二次)
6	Ⅳ編1章; 食生活と健康について理解する	講義	国民の健康と栄養、望ましい食生活、ライフステージ別の栄養と調理(教科書p184-202) 1.食事バランスガイドについて理解する。 2.特別用途食品、食育基本法について理解する。 3.ライフステージ別の栄養と調理について理解する。
7	Ⅳ編2章; 食べ物と健康について理解する	講義	食品の成分と分類、食べ物の物性(教科書p202-210) 1.3色食品群、6つの基礎食品について理解する。 2.5つの基本味を説明できる。
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科診療補助論 I Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木曜日/1限:オンライン 2限:対面
講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。						
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な基礎知識を習得する。						
科目概要	歯科医療従事者として必要な知識を学ぶ。						
到達目標	歯科医療従事者として実践にいかせる為に必要な知識を学ぶ。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論			事前事後 学習と その内容	事後学習として、小テストの見直し・復習をして知識の定着を行う		
参考図書							
特記事項							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療補助とは	演習	・歯科衛生士の業務内容と歯科診療補助について ・診療補助業務の業務範囲について ・他の医療職種についての診療補助業について
2	医療安全	演習	・医療安全について ・医療事故や偶発事故発生時の対応法 ・歯科医院でのインシデントとアクシデント
3	感染予防	演習	・歯科診療における感染リスクや感染対策の分類 ・スタンダードプリコーションについて ・グローブフィッティング
4	消毒法・滅菌法	演習	・様々な滅菌、消毒の方法について
5	医療廃棄物の取り扱い 歯科診療室の設備	演習	・医療廃棄物の概要と具体的な分類 ・歯科診療室内の設備について
6	歯科診療所における患者対応	演習	・歯科診療所における患者対応の基本 ・配慮が必要な患者への基本的な対応法
7	共同動作	演習	・共同動作の概念 ・術者、患者、アシスタントのポジショニング
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科診療補助論 II Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1・2限:対面
講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。						
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。						
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。						
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論			事前事後 学習と その内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。		
参考図書							
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	感染予防策	演習	・実習時の身だしなみや設備について ・手指消毒 ・滅菌器と洗浄器の取り扱い
3・4	共同動作 バキューム操作	演習	・術者、アシスタントの処置時のポジショニング ・顎模型でのバキューム操作実習
5・6	印象材取り扱い①	演習	・アルジネート印象材練和時の使用器材と練和方法を理解し、適切に練和する事が出来る
7・8	中間テスト 印象材取り扱い② 模型材取り扱い	演習	・全顎印象採得の手順を習得する ・普通石膏の練和時に必要な使用器材と練和方法を習得する
9・10	印象材取り扱い③	演習	・様々な精密印象材の取り扱い手順と使用器材・練和方法を習得する
11・12	歯科用セメントの取り扱い①	演習	・合着材練和時に必要な使用器材と練和方法を習得する ・仮封用セメントに必要な使用器材と練和方法を習得する
13・14	歯科用セメントの取り扱い② 実技試験	演習	・指定された歯科用セメントを適切に取り扱うことが出来る
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科診療補助論 III Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory III	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	木・金曜日/1・2限:対面
講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。						
目的	専門的な歯科診療補助の業務の為に必要な知識と技術を習得する。						
科目概要	歯科診療補助業務を行うにあたって必要となる技術を習得する。						
到達目標	それぞれの材料の取り扱い方法について理解し、適切な操作方法を習得する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論			事前事後 学習と その内容	事前学習として、実習に関する操作方法の動画を視聴し、授業前に確認作業を行う。		
参考図書							
特記事項	忘れ物、身だしなみ不備等の準備不足で実習に参加ができない場合は見学とし、実習のレポートを提出することによって出席とする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	ラバーダム防湿①	演習	ラバーダム防湿について(使用器材や操作手順)
3・4	ラバーダム防湿②	演習	ラバーダム防湿に必要な使用器材や装着手順を習得する
5・6	歯間分離・隔壁	演習	歯間分離・隔壁についてそれぞれの特徴・種類・用途について 歯冠分離器の装着手順を理解し、適切に装着することが出来る 隔壁器具の装着手順を理解し、適切に装着することが出来る
7・8	歯肉圧排 中間テスト	演習	歯肉圧排の特徴・種類・用途について 歯肉圧排糸による歯肉圧排の装着手順を理解し、適切に装着することが出来る 筆記試験
9・10	仮封材①	演習	さまざまな仮封方法の手順と使用器材を準備し、仮封することが出来る
11・12	仮封材② 実技試験	演習	さまざまな仮封方法の手順と使用器材を準備し、仮封することが出来る 実技試験(指定された仮封材を適切に仮封することが出来る)
13・14	復習実習 衛生材料作成	演習	指定された歯科用セメントを適切に取り扱うことが出来る 各種衛生材料の作製方法を学び、適切に作成することが出来る
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅳ Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅳ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	星野 悠
		授業形態	演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			集中講義	
講師紹介	総合病院、訪問歯科を主軸とする診療所、韓国の歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。2014年より歯科衛生士専任教員。多職種連携の現場経験より、それぞれのコデンタルが専門性の汎用を図るべく「考える力」を身につける必要があると考える。						
目的	臨地臨床実習に臨むにあたり必要な、技術・知識の習熟及び記録化を学び、臨床現場での応用的学習の基礎を身に付ける。						
科目概要	臨床臨地実習オリエンテーション。						
到達目標	臨床実習ノートの記入ができる。 主要な歯科治療の流れを知り、器材の準備ができる。 登院にあたっての身構え・気構え・心構えができる。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科診療補助論			事前事後 学習と その内容	指定の動画を視聴のうえ、メモ(写真)をデータで提出すること。		
参考図書							
特記事項	身だしなみ不備の場合、授業に参加はできるが、小テスト評価より時 限毎に1点減点とする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨地臨床実習概要・実習内容の記録化	演習	【オンデマンド】※期限内の課題提出を以て出席とする ・臨地臨床実習読み合わせ(出席ルール・評価方法・臨地臨床実習ノートの記入方法) ・I期臨地臨床実習の目標設定
2	根管充填時の診療補助 普通抜歯時の診療補助	演習	【オンデマンド】※期限内の課題提出を以て出席とする ・根管充填時の診療補助、術式動画を視聴し実習ノート記入 ・普通抜歯時の診療補助、術式動画を視聴し実習ノート記入
3	医療安全・共同動作	演習	【3.4回目 2コマ続き 実習】5階集合 事前課題 5点 ・準備(10分) ・口腔観察→口腔洗浄→印象トレー試適→下顎概形印象採得→片付け(30分×3ローテーション)
4	概形印象採得・歯科用模型作製	演習	・ユニット清掃(10分) ・石膏注入(40分) ・実習室清掃(30分)
5	合着材・接着剤の取り扱い	演習	【5.6回目 2コマ続き 実習】6階集合 事前課題 5点 ・スーパーボンド®取り扱い ・合着材練和復習 実技評価
6	コンポジットレジン修復時の診療補助	演習	・コンポジットレジン修復の流れ ・コンポジットレジン修復実習 ・コンポジットレジン修復 実習ノートの記入
7	根管充填時、普通抜歯時の器具準備	演習	【演習】6階集合 ・器具準備 演習 ・器具準備 確認試験 10点 ※評価については別に示す
8	定期試験		筆記試験(1年次歯科診療補助論の全範囲から出題)

科目名 (英)	歯科材料学 Dental Materials	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	広田 一男
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			水曜日/1限:対面、2限:オンライン	
講師紹介	工学部大学院修士課程修了後、歯科器材メーカーにおいて歯科材料、歯科機械の研究開発に長年にわたって従事。研究開発の実務経験をベースにして歯科材料全般について十分な基本的知識がある。また、東京医科歯科大学歯学部、徳島大学歯学部などで非常勤講師として歯科材料学を教授し豊富な実務経験を有する。現在、鶴見大学非常勤講師。						
目的	臨床で使用される歯科用材料についての基礎的な理解ができるようにする。すなわち、その材料を臨床で使用する理由、材料の本質について基本から理解する。また、歯科材料は完成品をそのまま用いるのではなく、現場で練和等をおこなって臨床に適応することが多く半製品の状態で供給される。その注意点も理解する。						
科目概要	歯科材料の基本的特徴、使用目的を理解する。						
到達目標	多くの種類の歯科材料が臨床で用いられている。医療を支えているのは薬であるが、歯科の診療行為を支えているのは材料ともいえる。診療行為と用いる歯科材料の関係を理解できるようにする。また、歯科材料は半製品として、練和など臨床応用する際の衛生士としての役割の大きい事も理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験 □口頭試験 □実技試験 □その他()						
教科書	歯科材料の基礎(永末書店)			事前事後 学習と その内容	事前学習として講義に先立ち、学習範囲の教科書を目を通すことが望ましい。事後学習としては講義終了後、重要事項について小テストを実施するので、理解不足の事項はさらに教科書や配付する資料で身に着けるように必ず復習する。		
参考図書							
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科材料全般の分類 歯科材料の一般的所要性質 歯科材料の素材	講義	歯科材料には口腔内で使用される材料と口腔外で使用される材料がある 歯科材料は生体安全性が基本、その他の物性など所要性質について理解する。 歯科材料には有機材料、無機材料、金属材料など各種材料が使用されている。
2	印象材 模型用材料	講義	各種印象材(アルジネート印象材、シリコン印象材など)全般について。 石膏について理解する
3	合着・接着材	講義	リン酸亜鉛セメント、酸化亜鉛ユージノールセメント、カルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、接着性レジンセメントについて特徴を理解する。
4	歯冠修復材	講義	即時重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメントについて理解する。
5	仮封材 インプラント用材料、ホワイトニング用材料 ファイバーポスト用材料	講義	臨床で使用されている仮封材は多くの種類があるが、全般を理解する。 インプラントシステムやホワイトニングシステムの概略について理解する。 ファイバーポストを中心にコア形成の概略について全般を理解する。
6	セラミック材料 CAD/CAM 歯科用金属材料	講義	セラミック材料について理解する。 CAD/CAMシステムについて全体を理解する。 金属材料について理解する。
7	再生材料、骨補填材 矯正材料 予防用材料、	講義	骨補填材、再生材料について理解する。 矯正材料について包括的に理解する。 シーラント材を中心に予防用材料について理解する。
8	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	臨地・臨床実習 I Clinical Training I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	菊池 麻衣子
		授業形態	臨地実習		有		
		時間数	135	授業回数		開講区分	
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	3			曜日/時間	月～金
講師紹介	一般歯科医院に勤務の後、歯科医療メーカーにて商品の企画・開発に携わる傍ら予防歯科の正しい知識と技術を歯科医療従事者へ伝えるセミナーの企画・運営・セミナー講師を行うなど、豊富な実務経験を有する。2016年より日本医歯薬専門学校専任教員。						
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに追いつくコミュニケーション方法を習得する。						
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。						
到達目標	主として見学を中心とした実習とし、臨床現場における歯科診療の流れを理解する。						
評価方法	定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験 □口頭試験 □実技試験 ■その他()						
教科書				事前事後 学習と その内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う		
参考図書							
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地実習	臨地実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			